

令和 6 年度第 1 回城東区区政会議（地域福祉部会）

日時：令和 6 年 6 月 10 日
19 時 30 分～20 時 30 分

○弟子丸部会長

令和 6 年度第 1 回の城東区区政会議部会を、始めさせていただきます。地域福祉部会の部会長を務めさせていただきます。弟子丸です。どうぞよろしくお願いします。

早速ですが、部会の論議に入らせていただきます。先ほど本会での説明があった、令和 5 年度城東区運営方針の自己評価に関して、委員の皆様のご意見を、いただきたく存じますので、どなたからでも結構ですので、意見のある方は挙手をお願いいたします。

ここでは、地域福祉部会では、経営課題 4 の「地域が支えあい、住み慣れた場所で安心して暮らせるまちへ」に関することを中心にご意見を伺いたいと思いますので、よろしくお願いします。

○嶋委員

ちょっと最初によろしいですか。地域福祉、福祉って、なんにでも使えるんですよ子ども福祉もあれば、それから、いろいろ母子家庭福祉もあれば、私母子家庭育ちなんで、そういうのもあれば老齢もあれば、いろんな対象があると思うんですが、ここにある高齢者、障がい、子どもの福祉と考えていいですか、それともその子どもは子どもで別個に機会があるから子どもは多分ないと考えていいですか。その議論の対象はどこに絞ればいい。

○椿谷保健福祉課長

子どもは別途、子ども教育部会がございますので、特に障がい者とか高齢者とか、その他地域福祉ということです。

○嶋委員

それからもうちょっとついでと言ったら語弊ありますけども、私も高齢者なんで、対象になると思うんですよ。介護保険って、何で大阪は高いんですか。全国で一番高くてこれは高齢者ばっかりの問題じゃありませんけど、それに対して、どういう城東区として、市でもいいかもしれませんが、大阪市が一番高いので、大阪市でもいいかもしれませんが、どういう施策を考えてらっしゃるか、ちょっとお伺いしたいんですけど。

○椿谷保健福祉課長

介護保険料の算定はですね、介護保険事業計画、っていう計画がございます、そこで有識者の先生方にご議論いただいて、大阪市として決めておるんですけども、やはり介護保険の対象となる方はですね、やはり全国の中でも非常に大阪市が多いというものがございます。

○嶋委員

対象ということは高齢者が多いってことですか、障がい者が多いってことですか。

○椿谷保健福祉課長

高齢者が多い。

○嶋委員

それともケアを利用してる人が多いということですか。

○椿谷保健福祉課長

そうです。

○嶋委員

どれが多いんですか。

○椿谷保健福祉課長

ケアを利用されてる方が多い。

○嶋委員

ケアを利用してる人が一番多いんですね、どれぐらいあるんですか。

○椿谷保健福祉課長

具体の数字は持ってきておりません。

○嶋委員

例えば全世帯、高齢者の、今日9千人っておっしゃってましたが、これは独居老人なんです、例えば65歳とか70歳とか75歳以上でケア何ぼというのはおわかりになれるんですか。

○椿谷保健福祉課長

そうですね。今具体の数字は持ってきておりません。

○嶋委員

9千人ということでこの前伺いましたんですが。だから9千人をどう見守るかと、万が一のね、ポッキリ行かれるのも困るのでそういうのを地域でどう見守ってどう失敗なしいうたら語弊がありますが、百歳運動とか、いろんな活動にどう声かけて引き出すのか、いい方法ないですかね。でも民生委員いらっしゃいますよ。それは国政厚労省で、私らのところではありませんよということで、前回終わったと私は記憶してるんですが、違ってますかね。そういうことなんでちょっとグループくつつくかもしれませんけど。

○椿谷保健福祉課長

介護保険のですね、サービスが必要な方についてはしっかり介護保険サービスにつなげていくということが必要でございますけれども、そもそも介護保険サービスの対象になるような方をいかに少なくしていくかっていうことが大事なかなと思っています。そういう意味では健康寿命の延伸ですね、できるだけ健康で長生きしていただくための施策、健康づくり事業であったり、おっしゃった百歳体操もそうですけれども、食育とか、できるだけ健康的な食習慣と、それから運動習慣、ここら辺をしっかり進めていくことで、介護サービスの対象になるような方を、できるだけ少なくしていくということが重要なかなというふうに思っています。

○嶋委員

重要なんです、それは城東区独自でやられてるわけではないですね。

○椿谷保健福祉課長

城東区独自でもやってます。

○嶋委員

そうなんですか。例えば。

○椿谷保健福祉課長

百歳体操も重要な取り組みですね。

○嶋委員

百歳はそうですね。それ以外は。

○椿谷保健福祉課長

あと食育、いかに健康的な食生活をやっていただくかっていう啓発ですね、させてもらっています。

あと地域でも見守りをさせていただいてますね。ふれあい喫茶とか、地域での独自の取り組みをさせていただいて、そこでちょっとこの人調子悪いなあとかいうようなことを発見していただいていることもありますし、そこから支援につなげていくということもございます。

○嶋委員

地域サポーターとは違う。

○椿谷保健福祉課長

地域サポーターもそうです。

○嶋委員

そういう役割を果たしている。

○椿谷保健福祉課長

見守りの役割を果たしてる方ですね。各地域にお一人、地域によってはお二人いらっしゃることもございますけれど、区長が委嘱して、地域で見守りをさせていただいてる。

○嶋委員

何人ぐらいいらっしゃるんですか。

○椿谷保健福祉課長

今 17 名ですね。各地域に 1 人、一地域に 2 人いらっしゃる場所もありますけれど。

○嶋委員

大変じゃないですか。

○椿谷保健福祉課長

そうですね。だから 1 人でするってことはなくて、地域活動協議会とかね、地域の中で活動いただいている。

○嶋委員

そのメンバーの方もされてるんですか。

○椿谷保健福祉課長

はい。

○嶋委員

されてるんですか。

○椿谷保健福祉課長

されてます。だから地域の中で1人やるんじゃなくて、地域活動の中に入っていてやっていただいてる。

○嶋委員

あんまり聞かなかったんですけど。地活協の方に、いろいろ聞いて、老人サポートのほうに聞かなかった、ほかでやられてるのかもしれない。

○椿谷保健福祉課長

地域福祉支援員という言い方をしてるんですけどね、ちょっと横文字難しいので。

○嶋委員

でも地域で1人はちょっと厳しいっちゃ厳しいですよ。

○椿谷保健福祉課長

1人ではね、なかなか。

○嶋委員

そうですね。ついでにあのもう時間がもうちょっと。百歳体操でも、食育とか、ふれあいでも、ふれあい喫茶でもどっちかっていうと来る型ですよ、出て来ていただくという。で、例えばその泉大津なんかでは草履、親指を挟む草履でこれを履いて歩きましょうという、血流がよくなるんですけど、全身ね。だからその百歳体操にこなくても、これやって、毎日、2000歩3000歩、あるけば、少なくとも5000歩ぐらい効果ありますよみたいな、そういうパンフレットと一緒にスリッパですかね、わらじ型のが送られたというふうに、1ヶ月前かな、新聞に載ってましたけれども、そういう事業はお考えというか、どっちかというたらそれはブッシュですよ、もう押し付けて、またはもうなんせ自助努力でやってくださいという。そういうその施策というかその別にわらじのそれじゃなくていいんですけども、それに近いようなものは何かお考えですかね。

○椿谷保健福祉課長

そうですね、あのやっぱり問題なのは、自宅に閉じこもってなかなか地域活動に参加いただいてないような方が、やはり問題かなというふうに思います。そこは、要援護者のリストを作って、各地域とか民生委員さんにそのリストをお渡しをして、見守っていただいています。その中でこういう地域の行事もありますよとか、そんな感じでご案内もいただいたりしています。

○嶋委員

だから、外から見てっていう話ですよ。

○椿谷保健福祉課長

ええ。

○嶋委員

で、そういうご本人がそれにあんまり反応しなければ、多分わからないというか、そういう性格のもんですよね。地域サポーターもそうでしょうけど、民生委員も多分そうだと思うし、多分地活協の方で、そういう活動されてる方も多分、外からしか強制力はないですから、引っ張り出すっちゃうわけにはいかないんで、ふれあい喫茶もしょっちゅう喫茶店使ってる人は 100 円は安いと思うかもしれないけど、出ていかない人、喫茶店使わない人には 100 円って出すだけでももったいないと思うかもしれない、それはわかりませんが、引っ張り出すって結構大変だと私は思ってるんですよ。

○椿谷保健福祉課長

そうですね。閉じこもって特に支援拒否とかね、される方もやっぱりそこはちょっと大きな問題やと思ってます。

この地域の見守りの中でですね見守り相談室にソーシャルワーカーが 6 名おまして、もし地域の中で、そういう方を見つけてちょっと心配やなということであれば、区社協の見守り相談室にご連絡をいただいたらですね、プッシュ型の、そういう方が訪問することもありますので。何かお気づきの点あったら区役所とか、区社協にご連絡いただいたら、我々の方から出向かせていただきます。

○福田委員

月一ですけどね、食事サービスっていうのをやってて。

食事のサービスです。月 1 ですが、1 人の方とかね、引っ張り出して、車椅子でもこられてますよ。

○嶋委員

関目ですよ。

○福田委員

関目です。で、そこでお誕生日だったらお誕生日の何か催しをしたり、月 1 ですけどね。それをサービスしてくれる人がまた少ないからボランティアです。

○嶋委員

そういうその地活協の私のデータなんてついてるのにまたあれですけど、地活協でそういう、去年の城東の立派な冊子の 7 月号だったと思うんですが、城東の地活協の地区別の紹介が出てまして、確か 16 じゃなくて 12 しか出てなかったと思うんですが、ああいうのをこまめに出していただくと。あれで関目の健康まつりに申し込むと、何か空いてそうやなと思って。ちょっと行った記憶があるんですが、今お持ちじゃないですか。7 月やったと思うんですが、1 年前ぐらい。ここに、こういうのがあるんですね。それと、これ地区別の。まちづくりセンターって放出にありますね。どういう会社ってさっぱり分かってないんですが、去年の 6 月と今年の 4 月と、今月かな、3 回、ほぼほぼ同じでどっか、できの悪い AI が打ったんじゃないかみたいな、ほとんど似た文章で、3 回も載ってたんですが、何か意味合いがあるんですかね。ほとんど抽象的で、何をどうなってるかさっぱりわからない中身なんですが、ほぼ似た中身で 3 回。城東のすばらしい冊子の 1 面を、1 面というか半分やな、占

めて紹介されたそうなんです。

○椿谷保健福祉課長

まちづくりセンターですね。

○嶋委員

まちづくりセンターの紹介ですね。まちづくりセンターですよ。あの放出にある。それは、地活協支援制度ですね。

○椿谷保健福祉課長

そうです。地域が自律的に運営できるよう支援。

○嶋委員

外注されてるみたいで、どこまで区の施策をね、100%展開してもらわんと困るんですが、ただそういうのを3回も同じほぼ中身のもんでわからない内容でした。私には。

あのちょっとほとんどわからない抽象的で、3回ともほぼ同じ内容。ということです。

○椿谷保健福祉課長

地域活動が自律的にまわしていただけるように支援する活動、まちづくりセンターがしております。

○嶋委員

いいと思います。ごめんなさい。もうしつこいで最後に1個だけ。

マイナカードこないだ健康保険登録、それから利用率。いずれも高くないと思うんですよ。この城東でも、いろんな告知でも、区として健康保険証は12月になくなるんですよ。ペーパーは。原則としては、発行は一応1年ぐらい延長されるようですが、それは広めようとか、登録をたくさんしようとかっていうお考えというかそういうのは考えてらっしゃるんですか。

○椿谷保健福祉課長

マイナンバーカードにつきましては、私所管外でございます。きちんとお答えできるものがない。すいませんちょっと、その答えは、申し訳ありません。

○嶋委員

そうですか。

○河西企画担当課長

保険年金課長に来てもらいましょうか。

○椿谷保健福祉課長

そうですね。

○嶋委員

っていうか、国が12月までで、何でもかいうたら今月から薬剤、薬局行ったら、調剤薬局で、ようするに言われたんですね、マイナンバーカードもってますかと。で、いや、今日持ってないですけど、何でもか言うたら、健康保険証の登録を、その薬剤師会の本部から、お願いするよう言われてます。ということで、その1軒だけじゃなく、2軒、たまたま行った

ところ、全部そういうふうに言われたので、で12月まで、一応やってもらうということに来てますんで、促進してするよう言われてますっていうことなんですが、区役所ではそういう、ちゃんと国の、或いは市の自治体の出先ということから言えば、何か一言ふたことなんかそういうのがあってもいいのかなという。やらないという施策があればそれはそれでいいんですよ、区としては。それは賛同しないんだと、共産党の人みたいに、ペーパーでいいんだと。いっさいマイナのこととはしないでもそれはそれで、いいんですけど、区としてはどういうスタンスなのかなというのが、いっさいそういうことは、町内の、或いはその城東区のね掲示板でも、述べられてませんので、もっと言えば、区の、職員の方の、登録率と利用率もちょっと聞きたいぐらいなんですけど。

○椿谷保健福祉課長

市全体でもマイナンバーカードの普及促進、大きな役割でございますので、できるだけ持っていただけるように、周知とかね、お知らせをさせていただいております。あと持つ持たないは、最終的には、個人の判断ではありますけれども。

○嶋委員

8割は超えてますよね。マイナの。

○椿谷保健福祉課長

今ちょっと具体の数字はわかりません。

○福田委員

それに、あれですよ。年金もされますよね。

何か手当もらえるっていうときはそれを使えばいいのに、またわざわざ。

○嶋委員

そうです。

○福田委員

それ紐づけできてたら。

○嶋委員

私、孫が、ちょっと身内の話で申し訳ないんですが、東京の医学部にいまして、で、やっぱり強くあれをやらないと、実習とかいろいろなあれで、病院行ったら、横のあれがもうめっちゃめっちゃ大きくなればなるほど、だからあれでデータ一元化しないと、治る病気も治せないというそういうこともちょっとね、聞いたりしますので、やっぱりできたらできるやつは、いろいろな問題もね、あの年金のじゃないですけど、でるかもしれませんが、長い目で見れば絶対にやった方がいいしやらなきゃいけないし、というふうに思ってますので、ただこの時点で、薬剤師の、そっちから言われて、政策のね、あれあくまで政府のあれですから、施策ですから、そこからは何もないというのも何か違和感があつて。

○福田委員

高額医療とかそういうのも出てきたらって言ってましたよ。薬剤師。高額医療とかあるでしょ。

○嶋委員

それ、あれもマイナがあれば申請しなくていいんですよね。

○福田委員

自動的にもう、今日はお金いらないですよっていう。

○嶋委員

そういう事務処理を含めて、それからデータの、例えば内科行ってから外科行って、で、他の一番やっぱり処方薬みたいなそういうのを一元管理するとすぐわかるので、いちいち手帳持って行って、でそれもあれ1年分とかそこしか多分貼れないので、2年3年前にどういう既往症があったとか、いうのはやっぱり重要な情報なんですよ。

ま、ま、そういうことで、おわかりにならないというのは、それはそれで1つの回答なんです。わかりました。私は結構です。すいません。長い時間。

○栗原保険年金担当課長

保険年金課長なんですけれども、ちょっと途中から来たんですけれども、マイナンバーカードに移行することによって、いろいろ情報の一元化とかいうことがあると思いますので、今のところ任意っていうことにマイナンバーカードを持つことあるいは紐づけすることは任意になってますけれども、推進とか進めている立場で我々はおりますんで。そういう立場で。

○嶋委員

具体的にはどういう推進を取られるんですか。

○栗原保険年金担当課長

国の方の施策ってというのが。

○嶋委員

大阪市から、やるなと言われてるわけでは。

○栗原保険年金担当課長

ではないですね。

○高橋委員

なんかでも区役所さんでも1階で結構、マイナンバーカード発行の支援されてるんで、すごい積極的な。

○嶋委員

マイナカード。

○高橋委員

マイナカード。

○嶋委員

健康証、健康証、保険証というのは、1回も聞いたことない、区役所の方に。そんなに、そんなに結構あの私、区役所の前が住所なものですから、しょっちゅうこっち来てるんですが、掲示とかそういうのはあんまりないなとあんまりというか全然ないなと。

かくいう私も先月まで何とも思ってなかったんですけど、やっぱりお医者さんもそうですし、薬剤師もそこも言われて初めて言われてみたらそうなんで、確かにやった方がいいなということで先週登録したんですけど、だめ押しされて登録した。

○高橋委員

これからあれですよ。保健証との連携はもうちょっとアピールしていくほうがいいんじゃないかっていう。

○嶋委員

いいと思う。なんか 10 円か 20 円の料金。なんか受診のあれも下がるとかいう話も聞いたから。

○福田委員

12 月で終わったというてました。

○嶋委員

紙は一応発行が 12 月で終わるんですが。

○福田委員

いやいやその安くなるって、10 円 20 円安くなるいうのね。12 月で終わったっていうて。

○嶋委員

そうなんですか。今だけの。

○福田委員

どっちでもいいですって言われて。

○嶋委員

別に。

○栗原保険年金担当課長

再診については、今はその差はなくなっていると聞いております。

○福田委員

なくなってるんですね。

○嶋委員

10 円 20 円でやるやらんと決まらんと思うんですが。あのいろんな。

○福田委員

保険証でいいわとか。

○嶋委員

大きなデータのなメリットだと思いますけども

○栗原保険年金担当課長

わかりました。

○嶋委員

ありがとうございました。

○有田委員

マイナ、マイナンバーカードに関しては、去年一昨年はかなり区役所の方で、あちこちの出張、出張場所をいろいろ。

○嶋委員

作るのはね。

○有田委員

そうそうそうそう。

○嶋委員

だから8割超えてるはずなの。

○有田委員

そう思いますよ。だから、小さいところでも出張していく。

○嶋委員

健康保険の登録は、その半分も多分いってないかもです。

○有田委員

かもわかりませんね。

○嶋委員

利用率は大体6ポイントとか、6%とか5%なんですけれども、だいたいでもお年寄りで、1ヶ月はともかく、3ヶ月、4ヶ月、あと、1月から6月まで、1回も行っていない人は多分、10本の指で数えるぐらいだと思うんですけど。

○有田委員

区役所としては、いろんな手だてを考えて、普及にあの頑張ってはったと思いますよ。去年とかでもさっきの城東にも毎月どこどこで出張する。

○嶋委員

それマイナカードの発行ですね。

○有田委員

そうそう。

○嶋委員

だから発行は頑張られたらそれ全国頑張られたからね。だけど健康保険については、納期が決まってるので、どうなのかなあという。

○有田委員

それは国がね。

○嶋委員

全然別の話です。マイナカードと健康保険の登録と、ましてそれに伴う利用というのは。

○有田委員

いやまず、まずはあれでしょ、作るのが先決でしょ。

○嶋委員

いや作るんだから8割から9割だからもう。ほとんどパーフェクトに近い。

あと残ってるのはよっぽどの人っていうレベルなので、ほとんど普通に生活する人はマイナカードは持ってらっしゃる。でも、家の中に大事においてある。使ってない。だから健康保険証として使いましょう。データとして有効である。でもっと言えば、利用率6%とかなんかが全国みたいですけど、利用率が50とかなんかいう町もあるみたいなんですよ。

そこはどういうことをやってるかという、高齢者の健康の福祉のという話にはちょっと戻っちゃうかもしれませんが、診断、診療投薬のところにポイントをつけてるんです。それから、いろんな体操だとかイベント、それからまつり、そういうのにもそのポイントをつけて、だからいったら、儲かる。儲かるいうたら表現がちょっと違うんですが、行って励みになるという、そういう施策をされてる町があるようなんですよ。

利用率一番高いのが今、北海道利尻島、利尻町というところのようなんです、それ以外に、今年に入って急に急激に、利用率も、登録率もだからその登録率はもう6割超えてる。で、利用率も5割近い。非常に高い利用率で要するに有効活用されてる、本当に有効活用されるのはこれからなんですけどね、データのいろんな層があれば、いずれにしてもそういうふうに仕掛けがあれば、これを高めるということは決して不可能ではないと。

ただ、高めるという、高める必要性と高める意思があるかどうかというのが、多分、運営する側に求められていると、私は思ってるので、さっきからこういう質問をさせていただいてる。しいては、私は、高齢者、ないしは障がい者を含めて、それからケアが必要な人も含めて、プラスになると思ってます。デジタル化、デジタルして、マイナカードを健康保険として使う部分については、これは多分、長い目で見れば、いずれはせなあかん話なんです、早ければ早いほど、これはプラスになると思ってるので、こういう話を差し上げてます。マイナカードだけの話ではありません。すいません。

○弟子丸部会長

すいません。今のそのマイナカードの件に関しては嶋さんとしては、その紐づけですよね。要するに。

○嶋委員

紐づけのほうが大事です。

○弟子丸部会長

大事で、区としてそういうのをあの。

○嶋委員

データを、だから共産党さんが言うには、データが発表されると、一目で個人情報の一番核になるところが見れちゃうと大変という、そういうこと、それも一理あるんですけど悪用するっていう。だけどそれならもうねサイバー攻撃されて、する、あらゆるリスクもあるわけですから、何もデータ化ができないので。だけど、一般市民から言えば、そのデータというのは、少なくとも命に関わる個人個人の福祉という、福祉というのは辞書で引けば満足のいく生活もしくは生活環境ですと、辞書で引けば、そういう個人というものに置き換えれば、私は絶対有効だと、早くやった方がいいと。

いや、いろいろ聞けば聞くほど調べれば調べるほどそう思うようになりますということですよ。で、区はどうされているのかなと。もっといえば、ま、ついでにすいませんね長々と。「住んでよかった」じゃなくて「住みたい町」というふうに使ったほうが私はいいと思ってはるんですけども、どんなものでしょうか。これからも住みたい、だから新しい人がこれから住みたい。住んでよかったは今住んでる人たちが対象であり、これから住んだ、住みたい町というのは広くアピールということでそのためには、長寿の町だとかですね、いろんなメンテナンスができる場所だとか。風通しの良い町だとかが防災含めてですね、そういうのも完備してるとかいうやっぱりキャッチフレーズが、必要じゃないか、必要いう、そのために、今の保険証のあれが使えるわけありませんが、結果としてこれで寿命が伸びれば半年でも1年でも、間違いなくこれ独居じゃなくて世帯数って1年前、1000件増えてるんですよ。人口はほとんど横ばいなのに。ですよ。

○椿谷保健福祉課長

人口は少し減ってますけどね世帯数は増えてますね。おっしゃるとおり。

○嶋委員

1年前の6月号では16万7000、今年今月のも16万7000、ま100人単位がちょっと増えたり減ったりとか横ばいですね。だけど、世帯数は増えてるんですよ。1000件、8.4万件が8.5万件になってるんですよ。1000件増えてる。ということは、1世帯で人口が減ってるわけですよ。独居が増えてるわけです。多分、多分。

どっか出て行って働いて、息子と娘が独立してというよりは、独居の老人が増えてると私は思ってるんですけど。そら、データ詳しく見てみなわからんですけど。

そういうことを思えば、もう老人が住みやすく長生きできるというのは、ある意味めざす、めざすというか、めざしてもいいのかな。

タイトルのちょっと、住んででなくて、住んで、死んでからよかったと思ってもしようがないので今から住んだらすごくいい町よというふうにした方がいいんじゃないかなと個人的には思います。この、最初にもらった時から思いました、一番最初が違うんじゃないか。

○椿谷保健福祉課長

はい。ご意見ありがとうございます。

○嶋委員

すいません申し訳ないです。資料1-1ですね。これ。資料1の一番上の、住んでよかったと思えるまち。これから住みたいまちというのは私は推進、キャッチフレーズとしていいよなと思います。個人的に思います。すいません。

○弟子丸部会長

今の意見も踏まえて、何か意見ございませんか。区としては今の件ではマイナカードに関してはね、紐づけにしてもそれから作ることにしても任意なので、あくまでも普及には力を入れてると。

○嶋委員

任意というのがマイナカード作るのも任意なんですよ。

○弟子丸部会長

任意ですよ。はい。だからそういうことですよ。

○嶋委員

だから力を入れる入れないよって、8割とか9割にもなるけど、入れなきゃ。今多分登録率なんぼですかね。あんまりいないでしょう。

○弟子丸部会長

だからそこはね、やはり個人のそのカード、マイナカードにおける、認識含めて考え方だと思うので。

○嶋委員

考え方もありますけど。やはりアピールの仕方だと私は思う。

○弟子丸部会長

いや、アピールについて私はすごく、ここの城東区としてはね、それこそ前回、それこそ24区の中ではすごい成績だったとかいうことも聞いておりますので、アピールはされてると思います。推進についてはね。

○嶋委員

ホームページではアピールしてないですよ。

○弟子丸部会長

そういうことなんでその辺はそれぞれ意見がありますのでそういう立場で、今日の報告する場合にね、すべてここでいらっしゃる方が、そう。全部そういった区役所の方から、今言われたように紐づけとか、デジタル化を推進する立場という発言、まとめていう形で私は報告は、いたしません。それだけは確認していただきたいんです。

全員とこことしての意見としてはね、確認されてる1人としてそういう意見はあったということ。

○嶋委員

部会長さん、ごめんなさい。こことしての意見は今部会長の意見ですね、それ。

○弟子丸部会長

私はそういうふうに、今の意見については報告させてもらいたいんですがどうでしょうか。だから、今、推進をした方がいいと、役所としても、今言った紐づけです。今紐づけの部分ですよ。カードの普及に関しては、推進はもう、城東区としてはされてるんで、あとについて、それをやるか、持つか。紐づけにするかは、もうご本人のその意思ですので、するかしない、そこまでの、ある面でとらえ方としては、押し付けだから、どうそれを表現するかはあれですが、要するに、区役所としてもそこも進めたほうがいいってことですよね。今嶋さんのご意見は。

○嶋委員

うん。進めたほうがいいという意見です。

○弟子丸部会長

ということですね。だから嶋さんの意見としてはそういう意見もあるということで、報告はさして。

○嶋委員

わかりました。はい。

○栗原保険年金担当課長

法令改正されてですね、保健証の方が、12月の2日以降廃止されるということが決まっておりますので、それに向けてこれから紐づけというのは、進んでいくという状況はあるかと思いますが、今のご意見いただきましたので、我々としても貴重なご意見として受けとらせていただきます。

○弟子丸部会長

はい、意見として、はい。

○嶋委員

で、ごめんなさい、部会長さんにちょっと確認差し上げる、その前の、プッシュ、来る型は難しいから、プッシュの施策は出されるお考えはどうかというのについては、どういうふうにとらえたんですかね、部会長さん。

○弟子丸部会長

ごめんなさい。プッシュっていうのは、押すっていうことですか、広めるっていうことですか。

○椿谷保健福祉課長

待ちの姿勢じゃなくてアウトリーチっていいですか、こっちから行きましょうということですよ。

○嶋委員

なかなかね、地域差は少ないですし、地活協の方もなかなか出てこない人をね、引っ張り出すっていうのは難しい話なんでね。送って、送ってと言ったら語弊がありますけども。

○椿谷保健福祉課長

あの貴重なご意見だと思ってますし、進めていかんとあかん部分やと思ってます。

○嶋委員

多分、泉、泉大津さんだったと思いますけど、新聞にも多分でっかく載って。で、医学的にもというか、それ、草鞋型のあれって、メリットが血流よくなるというメリットが、泉大津さんが多分そういう資料が、泉大津、すいません、間違ったら申し訳ない、たぶん泉大津さんだったと思うんですが、現にやられてるんで、だまされたと思って一度資料取り寄せて、にくなり叩くなり煮るなり好きないようにということをお願いしたいと思います。

○弟子丸部会長

だから、高齢者の方たちが、特に独居とか、或いはあまりサービス、いろんな取組みに積極的じゃない方に対する、プッシュですよ。それについては今言った泉大津のような1つ

の取組みがあると。そういうところで、区の方も。ということでよろしいですか。

○嶋委員

今、そういう取組みはあるとおっしゃったように聞こえたんですが。

○弟子丸部会長

いや、泉大津の取組みを。

○椿谷保健福祉課長

参考にされたらどうですかっていうことですね。

○嶋委員

別に丸写しじゃなくてもそれに代わるものがあればそれは全然、ハッピーなんで、ただ1つの例としてね、検討いただければなという、それだけの話なんで。

○弟子丸部会長

なんかそういう部分では、私はやっぱり今言ったサービスを、なかなかね、今言った地活協の人とか、地域のサポートの方が、出向いてもなかなか、出てこられない方に。

○嶋委員

という方もいらっしゃるしね。

○弟子丸部会長

いらっしゃる、そこはすごい大事だと思うんですよ。どこでも課題だと思うんです。だから、それについて1つは今言った泉大津の、そういう草履ですか、草履を提供して、自身が運動するっていうんですかね。

○嶋委員

そうですね。

○弟子丸部会長

高めるという点というものがあるんだけど、城東区の中でそういう、方向を作っていくっていうのが、意見があれば、すごい大事なことだと思うんですよね。すごく。

今、どの点でもそれは1つの地域の中でね、高齢者の方、いろんな参加していく形で大事なことはないかなと思ってるんですが。もしそういうそのことに対して、何かご意見等あればお願いしたいんですけど。

○門田委員

すいません百歳体操ってある程度なんか重りとかがあるんです。参加したことがあるんですけども。今の話だったら草履、布草履みたいな感じだったら、本人が常にそれが家に持って帰って履けるという。百歳体操はそこに常にその重りがあるのでそこで借りて、百歳体操するんですけども、例えばそういう布草履のなんだったら、家持って帰ってできる、またそこへ持って行ってできる。なんかそういうような。

○嶋委員

何歳以上やったかな、75か71歳かちょっとごめんなさい。不確かなんですけど、送ってるらしいんです。リストがあるので。だからその超健康な人、不健康な人、わかりませんので

一斉に送られて、使ってる人や、そうじゃない人もいるかもしれませんが。

○門田委員

そういうような百歳体操みたいな感じで、布草履歩こうじゃないですけどねその周りで、布草履、一時はやりましたよね。はやったんですよ。私も作ったことあるんですけども、そういうので一応作って、ある程度女の方はそんな好きと思うんですけどね。それを持って帰って家でもできるので百歳体操みたいな感じで、そのサークルみたいな感じでもできる、何かなんか簡単にできるっていうのがすごくいいなっていう、今思ったんですよ。うん。

百歳体操は常にその重りがなかったら、何か百歳体操している意味がない。それはそこにあるところにしかないものなのでね。なかなか、週に 1 回そういう借りるというわけにいかないで、布草履的なんだったら常に家に持って帰ってできるということは、自分だけじゃなくて、子どもでも、孫でもいいですので、いろんなことで輪が広がっていいん違うかな。

どういう感じで健康になるかというのは私もわからないんですけども、昔の方は皆さんそういう草履的な、だったのもまたそういう布草履履いてどういう感じで、健康になるとか運動になるかっていうのが、もうちょっとわかれば、広めていけるん違うかなっていうのがいいかなとは思いました。

○椿谷保健福祉課長

自宅でね気軽に運動していただくっていうことも大事ですし、またぜひ、ちょっと地域でね、百歳体操だけでなくラジオ体操も地域でされてますんでね、近くの公園とかね、そういうところにも参加いただくと、また体だけでなく、あの会話とかね、そういうことで生きがいにも繋がるのでね、そういう出て来ていただくっていうようなことも大事。

○有田委員

話の腰をおるようで申し訳ないんですけども、ご老人の方で 1 人では運動しないと、自主的に、だからみんな、だから百歳体操みたいにどっかで集まって、何人でも 4 人でも 5 人でも集まったら、しはるんですね。

○嶋委員

すいません。それは全くその通りなんですけど、百歳体操でも、いろんな民謡のサークルでも、麻雀、囲碁とかもあるし、それからいろんな歌声の、合唱の、楽器のいろんなサークルありますが、多分聖賢の地活協が主催されてるサークルで、常時出てこられる方、月何人いらっしゃるんですか。

○有田委員

どういうあれですかね。

○嶋委員

会員が何人いらっしゃいますか、百歳体操でも。

○有田委員

百歳体操は、うちの町会では 10 人、狭いんで 10 人しか入らないんですけども。

○嶋委員

聖賢会館やったら 10 人か 20 人が精一杯かもしれませんが、他の会場でも多分そんなに 100 人や 200 人収容できませんが、多分聖賢でも 75 歳の後期高齢者だけでも多分 2 千人ぐらいはいらっしゃる。

○有田委員

ありますね。

○嶋委員

1,500 人ぐらいはいらっしゃる。

○有田委員

もっといますね。65 以上でも 2 千人ぐらい。

○嶋委員

そうですか。そしたらそのうちのごく一部しか外に出てこられてないですよ。ふれあい喫茶なんか行ったり、行ったりっていうて語弊がありますが、行かしてもらって、まあ 10 人、スタッフなんか入れられて 10 人。

○有田委員

これ城東のふれあい喫茶は 80 人ぐらい来てます。

○嶋委員

いやいや、例えば、第 3 土曜日だとか、なんかされてるの、昼に上がって、例えば、聖賢会館の 2 階に上がって、で、お客さんの顔見て、何人いるかという話なんです。

○有田委員

80 人ぐらい。

○嶋委員

80 人来られるんですか。毎回。

○有田委員

毎回毎回ほぼ。

○嶋委員

週に何回されてるんですか

○有田委員

月 1 回ですけどね、今のところ。

○嶋委員

それはほとんど新しい方ばかり？常連ばかり？

○有田委員

常連、ほぼ常連ですね

○嶋委員

それ入れて全部で月に、いろんなサークルに来られる方何人になりますか。

○有田委員

いろんなサークルで、どの辺まではサークルっていうのはわからないんですけど、いっぱいやってはるんで。

○嶋委員

いっぱいあるけど、全部合わせてどれぐらい、すでに外に出てこられる方ですよ。

○有田委員

そうですね。少ない。

○嶋委員

コミュニティーいや、いろんな意味で。

○有田委員

いうてはんのはわかりますよ。だから何かを送って、外に出て運動させようという、一応意図はわかります。

○嶋委員

いや、そういう方は元気なんですよ。私が言ってるのは。

○有田委員

来る人は元気なんはわかりますよ。

○嶋委員

そういう人はほんといても大丈夫なんです。問題は出てこられない方が多い。その人たちが 10 人に 1 人でも、20 人に 1 人でも、それでちょっとでも病気をなくしていただければ、高い介護保険をもっと高くせなあかんとかいう事態がちょっとでも下げられるんじゃないかと。そういう話なんです。それでそれが結果として大きくなれば、ここは健康長寿のまちと区と自治体だと言えそうな日が来て欲しいなと私は思ってるんです。

○有田委員

今でも、もううちの町会ですけども、60 何%の人が 60 以上なんで、かなりおっしゃってるように、住みやすいまちとは思いますが。

○嶋委員

それは外部に発信されてますか、城東地域は、長生きの区だと町だと、どんな秘訣があるんですかということは。

○有田委員

そこまでは言うてない。

○嶋委員

偶然でしょ。変な言い方あれですけども。

要するにしかけて、幸せになった方がいいんじゃないですか。区が全体で蒲生だけがよくなるのではなく。その長生きの秘訣あるんなら、ここでもぜひご披露していただいた方がいいんじゃないすかね。

○有田委員

長生きの秘訣。

○椿谷保健福祉課長

各地域で地域活動協議会でいろんな健康とか福祉、それぞれ独自の取組みを進められて
と思いますんで、それは体操だけじゃなくて、生涯学習もそうですしね。

○嶋委員

独自の取組みをですね、ちょっと悪口になって申し訳ないですが、どこでとったアンケートか N がわからないとかいう、アンケートのパーセントが上がったとか下がったとか多分説得力があんまりないんですよ。だから、5年前にこの平均年齢でした。今、同じ N でとったら、5年後にはこのお亡くなりになった人の平均値がこれだけ高くなりました。この要因はいろいろあるでしょうけど、こういうことをやってこうなりましたというストーリーがないと、誰も納得しない。アンケートって、どういう人にいつ、どういう方法でとったかってさっぱりわからないので、57%が正しいのか 60 が正しいのか 80 が正しいとかいうのは、前年より低い高い言われても、じゃあ同じ人にそれ取ったんですかという話とそこは多分違う人ですよ。違う人にとってますよね、たぶん。

このアンケート、例えば地活協を知ってる区民の割合、知ってる知ってないから多分同じ人じゃないかもしれませんが、ていうアンケートなんかは多分違う人で、同じという話はちょっと違うような気がしてしょうがないんですけどね。

それで N が、10 とか 20 とか 100 とかは N じゃないですからね。サンプリングというのはやっぱりある程度、住民が 16 万 7000 ですから 20 万と仮定して、どんな少なくとも 1,000 人はとらないと。有意差とかそういうのは出ませんからね。

それと場所も特定、区役所の前とかいうのは、区役所の前で、区役所の対応はどうですかってアンケートとっても、あんまり意味ないですからね。

区役所よく使う人使わない人という、そういう割り振りをしないと、正確なあれはわかりませんので、こういうアンケート、ちゃんと目標値としてかかげられるなら、その方法も明示されないと、説得力があんまりないです。

○椿谷保健福祉課長

おっしゃってるのは経営課題 4 とは別のところのお話ですかね。

○弟子丸部会長

アンケートについてですね。ここの評価の、取り方とか、このアンケート。

○嶋委員

アンケートのパーセント、区民アンケートというのは幾つありますか結構あると思うんですが。

○椿谷保健福祉課長

全体を通してということですね。

○嶋委員

参加者アンケート、学校アンケートというのはまだわかりますけどね。

民生委員児童委員もこの、何人の全数という、全部の数ならそんでいいですけど、全数

明示していただければ、だから最後も、アンケート。区政会議委員アンケート、これいつとられたんですかね。最後取るんですか。これは区政委員のアンケート。区民アンケート区役所がとれてるという割合区民アンケートどこでとられてるか、わからない。

○河西企画担当課長

区政会議アンケートは前回の前の委員さんに対して行ったアンケートです。

○嶋委員

それはそう明示された方がよろしいと思うんですけど、区民アンケートというても、区民アンケートって、全然行われてない。

○河西企画担当課長

経費の面もございますので無作為抽出で選ばれた人にお送りしておりますので、決して区役所の前でアンケート調査をしたとかいうわけではないんです。

○嶋委員

そうですか。だから、すいません、飲み込み悪いので、申し訳ないです。ちょっと理解できなかったです。すいません。次、教えてください。

○弟子丸部会長

このすみません、ちょうど質問である、アンケートの数とか、今の明示方法について、は、やっぱり提示された方がわかりやすいね。数値の。ということで、はい。他はどうですか。

○高橋委員

いいですか、別の話。

福祉、充実させるっていうことで、住みやすいまちをめざすってすごくいいことだなと思ってますんで。健康寿命を延ばして予算を抑えていこうっていうのも素晴らしいなと思いました。

その中で、高齢者の方にとって住みやすい街になったとして、その時に、現役世代にとって住みやすい街なのかっていう考えもあって、この保険料、収納率の向上とかもあるんですけども、保険料払ってるの現役世代で、そうですね払うのが厳しい人も増えてるのかなと思ったり、自分たちもやっぱり年々払う料は増えているので、何とかその辺、減らないかなとは思ってるんですけど。

○嶋委員

ちょっと端折って申し上げたい。年金は現役世代が払うんですよ。介護と国民保険は、私らの貧乏年金生活者も払わさせられるんです。介護なんかは、もうこんな貧乏なのになんで1回2万円も払うのみたいな。2人しかいないんだけど女房と私と。というぐらいに、いじめられてるんです。お国から。

○高橋委員

ということで。

○嶋委員

年金はごめんなさいね。若い人には大変申し訳ないと思います。

○高橋委員

全員が負担している中で、よりよくしようと思ったらどんどんいろんなことにお金がかかってしまうと思うんですけど、逆にこう費用を抑えていこうかなっていうことの意識っていうのは、やっぱりあるのかなっていうのは聞きたいです。

○椿谷保健福祉課長

おっしゃったように高齢者、どんどん増えてますし、特に後期高齢者、75歳以上の方が非常に増えているんですね。そういう中でやっぱりそういう方って、体調悪くしたりってことで、介護サービスを受けたりですね、医療費に繋がったりということがあります。そういう方の負担もですね、社会全体でどうやっていくのかってということなんです。まずはやっぱりその先ほどの繰り返しになりますけども、そういう方いかにお医者さんにかからずに済むか、また介護福祉サービスにかからずに済むかっていうところのその、川上のところでですね、これ施策打っていかないと、どんどん増えていってね、現役世代の負担にもなってきます。

健康増進プランっていうのも我々作ってますんで、いかに健康で長生きしていただいて、そういうサービスを受けずにですね、自分らしく楽しく暮らしていただけるか、そこに我々としてもね、力を入れていきたいなと思ってます。

今年健康増進プランの切り換えの時期ですので、委員おっしゃったようなところも含めてですね、考えていきたいなというふうに思います。

○河西企画担当課長

あと10分ほどでまとめに入ることになるお時間ですので、まだご発言されていらっしゃらない方、もし何かございましたら、と思います。いかがでしょう。

○河野委員

いいんですかね。関目東なんですけども、いろいろお話を聞かせていただいて、関目東も百歳体操とかふれあい広場、また、ふれあい広場で男性の方、特に男性対象に高齢者の男性を対象に来てもらうんですけど。来る人が来る。なかなか新しい人を誘うということは難しく、できるだけ来ていただいた人にはお声かけして、友だちとか声かけてきてくださいねということはお願ひするんですけど、なかなか、急に増えないというのが実情で、どうすればいいのかなということで考えて。

今日、いろいろお聞きして、やはりもっともってこちらの方から待ってるんじゃないくて、そういう人がおれば、出向いていってでもですね、ちょっと声掛けして、どうですかというような形でやっぱ積極的に働いて動いていかなあかんのかなというのがね、どうしても今までは来る人を対象にということがやってたかなという。ちょっと反省してるとこなんで。これからね、言っていって、ああいう人がおったら、そこまで足を運んで、声掛けするようになちょっと皆さんにお願いをしていかなあかんかなということで、ちょっと意見お聞かせいただいて感じたところです。

○弟子丸部会長

じゃあちょっと時間も来ましたので、あと5分でまとめしていかないとできませんので、よろしいですかね。どうしても最後に。

○高橋委員

今のお話の中で、思ったことなんですけど、高齢者の方、病院は利用されるってことなので、病院との連携を取って、宣伝していくというか、呼びかけていくってことかなと思います、いいのかなと思いました。

○弟子丸部会長

はい。わかりました。じゃあ以上で、もうよろしいですか他。

○嶋委員

よろしいですか。ちょっと高齢者福祉とはちょっと違うかもしれませんが、これ城東、城東これすごくいいパンフレットで、ありがたいと思ってるんですが、わかりやすく。何部つくられて、刷られてるんですか。

○佐々木係員

96,800。毎月、発行しております。

○嶋委員

そうですか。単価26円ですか。すごいですね。これ余らないんですか。余ることあんまりませんか。

○河西企画担当課長

ほぼ、バックナンバーを少し区役所に控えとして残るぐらいで。はい。印刷部数も調整がききますので、無駄な印刷はしないようには気を付けております。

○嶋委員

ねらいとしては1回の廃棄ですかそれとも永久保存。要望されてますか。1回廃棄、例えばこのレベルは1回廃棄ですね。自分の必要なところを読めば。これは1回廃棄は望まれてなくて、ずっと取っというおいた方がいいわけですね。

○河西企画担当課長

できれば保存していただきたいという思いで、もともとタブロイド版の大きなペラペラのものだったのを冊子版に変更しました。

○嶋委員

このほうが絶対いいですね、タブロイドより。なんかでも高いような気がするんですけど。もっと安く。9万、9万とられてるんですね。26円ですか。

○河西企画担当課長

そこに表記もしておりますが、一番後ろの面に広告を載せることによって、一部は広告収入で賄うようにはしております。

○椿谷保健福祉課長

ちょっとこの地域福祉プラン、すいませんお配りさせていただいてまして、これ今年度一応改定の予定でございます。今目標とそれから目標の達成状況。○×つけさせていただいて

ましてちょっと今日すいません、説明する時間がなかったの申し訳ないんですけど、ご覧いただけたらと思います。よろしくお願いします。

○嶋委員

廃棄はない。廃棄はないんですか。

○河西企画担当課長

はい。

○嶋委員

ないですね。

○弟子丸部会長

じゃあ、すいません。ちょっとまとめで、今度は本会の方で報告させてもらう内容をちょっと皆さんの方、ご確認させてもらいたいと思います。

出た意見ですが 1 つはこの地域福祉ということで福祉はいろんな分野で使われているということでここでの部会での中心の主となるところで、何をとってということで、高齢者、障がい者福祉のところの充実を検討するというところで話を進めて、ということで、1 つは確認されたのではないかなと思います。

そして 1 つは、問題の中で、大阪市ですね、介護保険料が高い、なぜ高いかというところでは 1 つには、城東区というか、サービスを利用されてる人が、大阪市には多いということですね、その介護サービスを利用されている方が多いということで、そういうことでじゃあそのサービスを、やっぱり介護保険を利用しないように、健康で長生きする施策ですね、対策をやっぱりすることが、保険料の減額ですね、介護保険を含めて社会保険にも繋がっていくということで、先ほど言われましたそれが健康で長生き増進となって、健康で、こういうサービス等を利用せずに元気で、年をこうして 100 歳まで生きられるような、長寿ですね、社会、まちをつくってくれれば、今言ったような保険料高くななくてすむ、そして若い世代にもそれ、その負担がなくなるということで、そしたら住みよいまちにもなるんじゃないかということで今、健康づくりがいろんな点で進められている。地域の協議会の方とか、そういう方がいろんな取組みを地域の中でされてるが、しかし参加される方は少ないと。

だから、やっぱり町ではなく、来てくださいということで、来た方を対象だけじゃなくて、やっぱり足を運んで、すべての人が、すべての高齢者、ここに城東区に住んでいらっしゃる 75 歳以上、特に 75 歳以上の高齢者は、65 歳から高齢者ということになってますが、この方たちに呼びかけてきてもらって、健康づくり、そして 100 歳まで元気で暮らせるまちをつくっていくということでよろしいでしょうか。

そういう中身で簡単にまとめましたが、地域のサポーターの方も足を出して、そういう高齢者をいろんな運動とか、いろんな取組みに参加さしていくということでよろしいでしょうか。

マイナンバーの件もいわないといけない、そうですね。マイナンバーぬけたんで、マイナンバーの区としての推進含めて、今度 12 月には切れますので、紙ペーパーじゃなくなるの

で、そういう意見があったので、ぜひ活用して。

○嶋委員

次回っていつでした。次回 12 月、10 月。

○弟子丸部会長

1 月って書いてあった。

○嶋委員

12 月だったらもう終わってるなと思って。いやすいません。

○弟子丸部会長

というような報告をまとめ。

○嶋委員

どうでもいいようなことですが、河西さんのところだと思うんですが、城東の去年の 7 月に地活協のおっしゃる 1 個 1 個の紹介があったんで、あれをぜひお願いしたいなど。掲載をお願いしたい。

○河西企画担当課長

今年度も予定をしております。

○嶋委員

ポイントポイント。それと、いっちゃなんですけど吉村区長さんの S D G s のあれは何が S D G s かよくわからないし、全くあれ意味ないと思うので、私個人的にあれは削除していいと、すいません。勝手な意見で。

○河西企画担当課長

ご意見として賜りました。

○弟子丸部会長

すいません。この前ね、まとめの中にやっぱり若い人と、やっぱり高齢者、だから高齢者がやっぱり、息づくまちづくり、障がい者、いろんな方がまちづくりするっていうのは、若い人とも連携をしていかないと、やっぱりまちづくりはできないんじゃないかということで、ちょっとお話いただいたと思うんです。で、城東区の中で私もこのあれ見てましたら、地域活動協議会だよりの中に、青年指導員、通称青指というのがあるということで、結構若い方たちですね、その活動にね、地域、地活の活動とか、いろんな地域の行事ですね取組みを積極的にやられてるようなので、ぜひ若い方に、自分の近くにいる方にこういうところも誘っていただいて参加していただくと。

○嶋委員

6 月号。

○弟子丸部会長

これ、6、これは 5 月号です。で、1 つあるんじゃないかなと思いましたので、ちょっと紹介、私もこれ読んで、これちょっとね若い人も含めて、すごく地域参加ね、やっぱしていかないと、まちづくりが活気できないんじゃないか、だからすべての世代がやっぱりどう関

わるかっていうことが、私はやっぱりまちづくりに大事なことはないかなと。

○嶋委員

地活協で若い人って、若い人は何というか、何歳からってというのは定数はあるけど、少ないんじゃないすか。

○福田委員

地活協、50歳で定年とかっていう

○嶋委員

50歳。一番下。

○福田委員

青指。いやいや。

○嶋委員

平均、平均。

○福田委員

上。

○弟子丸部会長

この青指の？

○嶋委員

あ、上。

○福田委員

でもしますよ、それ以上の人やってますよ。

○嶋委員

もちろん40歳30歳やたくさんいらっしゃる。健全ですね。

○福田委員

子育てサロンっていうのがあるんですね。

○嶋委員

それ関目の活動協議会ですよ。活動協議会ですよ。聖賢はどうですか。

○有田委員

青指ですか。青指は聖賢は少ないですよ。

○嶋委員

そうですか。

○有田委員

はい。10、24町会あるんですけどもその内、10人ぐらいしかない。だんだん減ってきてるんですよ。50が定年なんで。

○嶋委員

青指はね。

○有田委員

はい。でその上の福祉委員というのがあるんですけど、それは定年は 70 とか 80 ですけども、あまり活動されてないようです。

○弟子丸部会長

ちょっと時間がありましたんで、紹介までです。

○有田委員

あれによって地区によって全然違うんで。

○嶋委員

そうですね。特徴ありますね。鯉江はどうなんですか。

○門田委員

はい。青指もちゃんと 17 町会で 16 名ぐらいです。各 1 町会に必ず 1 人は出してくださいっていうのを、もうずっと言ってます。それでも 16 名です。

○弟子丸部会長

関目東。

○河野委員

関目東も各町会に入ってます。最低 1 人で、地域によったら 2 名で、副部長さんみたいながありますけども、やっぱり若い人が主になって夏まつりとかやってもらってますんで。

○福田委員

キャンプしたりとか。校庭でキャンプしたりとか青指の人たちが。

○弟子丸部会長

関目は何人ぐらいいますか

○福田委員

各 1 人は出てます。活発ですよ。

○弟子丸部会長

じゃあ、はい、以上です。部会を終わらせていただきます。ありがとうございました。